



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



戸隠スキー場

国設スキー場 降雪を待って



チャオ御岳スノーリゾート

(P 5 に関連記事)

主な項目

- 長野西ロータリークラブと「法人の森林」調印式 P 2
- 平成18年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催 P 2
- 風景紀行「権兵衛トンネル」..... P 6



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

長野西ロータリークラブと「法人の森林」調印式

「国有林野管理課」十一月十一日、ホテル国際21において、長野西ロータリークラブ創立二十周年記念式典の中で「法人の森」の調印式を実施しました。

長野西ロータリークラブは、創立当時から自然環境の保全・育成を通じた社会貢献活動に熱心に取り組んでおり、平成八年度には創立十周年を記念して当局と「分収造林」の契約を締結。このたび、創立二十周年記念事業として「法人の森林」制度を活用し、会員及び会員の家族をはじめ地域の青少年が、森林整備や森林レクリエーションを通じて森林の働きを学びその重要性を理解することを目的として北信署管内の照岡山国有林内に「法人の森」の契約を締結しました。



調印する小椋局長と山田委員長

契約の内容は、①設定場所：長野県飯山市大字照岡字照岡山一四一四番一照岡山国有林一六三ろ林小班②契約面積二・七二畝③契約期間六十年間④名称「長野西ロータリークラブの森林」です。

平成十八年度

国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催

「企画調整室」十一月二十二日、中信森林管理署会議室（松本市）において平成十八年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催しました。

会議は、管内各ブロックを代表する市町村長等九名と、当局から小椋局長、矢内次長ほか関係者が出席し、林野庁から沖業務課長、本郷首席森林計画官が出席して開催しました。

会議の冒頭に、小椋局長から、中部森林管理局の業務運営等に対する御礼や「森林・林業基本計画」が策定された旨の紹介、局の取り組みに対するご支援のお願い等の挨拶を行い、また、林野庁業務課長からは、国有林野事業へのご支援・ご協力に対する御礼と中央情勢についての説明等がありました。

続いて、計画部長から本年九月に策定された新たな「森林・林業基本計画」についての説明と計画部長及び森林整備部長より平成十八年度の主な取組等を紹介し、その後、意見交換を行いました。意見交換では、各市町村長から、それ

ぞれの実情を踏まえ、バイオマスへの取り組み、国有林野の利活用、林業事業者の育成、登山道の整備、保安林や治山事業、地域振興等、多岐にわたる発言があり、また、最近深刻になっている鹿や熊の被害についても活発な意見が交わされ、市町村の国有林に対する大きな期待が感じられた会議となりました。



有志連絡協議会議の様子

各地からのたより

下呂市内十一小学校で森林教室

「岐阜署」下呂市ロータリークラブの依頼で、十一月から来年二月まで、下呂



児童も楽しみながらの実験

市内十一の小学校（四～六年生十四クラス）において森林教室を計画しており、既に九校実施しました。森林教室は、教室内での開催となっておりますが、森林ふれあい係長を中心に、五人の職員が分担して講師を行っております。各講師は、それぞれ得意分野の技術を駆使し、森林の働き、とりわけ地球環境と森林の役割について話しています。児童たちは、講師の繰り出す実験や実物、パネルや写真等に変な興味を示し、学校や、ロータリークラブからも好評を得ています。中でも、新たに作成した森林土壌の保水性を確認できる実験装置、「雨水の行方シミュレーションシステム」は、連日の使用にもかかわらず効果を発揮し、児童達が森林の水源かん養と災害防止の働きを実感することに役立っています。

森林ふれあい講座を開催

「名古屋事務所」十一月十八日、第七回森林ふれあい講座を「鑑賞炭づくりと炭のパワーを知ろう」と題して定光寺自然休養林内の炭窯周辺で開催しました。今回の講座は、鑑賞用の簡易炭焼き・竹炭の釜出し体験、そして炭の効果・秘密を活用事例にまじえながらの講義という形で行いました。

炭焼きは、炭にしたい物として各自が持ち寄った、松かさ・ドングリ・ピーマン・ゴーヤ等を、糊穀と一緒に空き缶に入れ、火を調節しながら、一時間程で鑑賞炭にする工程です。

参加者は焼き上がりを楽しみに、糊穀と一緒に炭にしたい物を缶に丁寧に入れていました。焼き上がるまでの時間を利用して、黒炭と白炭の違いや、水質浄化・燃料用・消臭効果等々いろいろな場



心躍らせながら炭を取り出して

面で活用されている炭の効用について勉強しました。また、既に焼き上がっている竹炭の釜出しも体験し、炭釜の構造や火加減の難しさ等についても学びました。

講義が終わる頃には、鑑賞炭も出来上がり、自分が持ってきた物が上手く炭になっているか、心躍らせながら慎重に缶の蓋を取りました。焼き上がった鑑賞炭はどれも上手く出来ていましたが、予想以上に小さくなっている様子に受講者は驚いていました。

今回のふれあい講座は定員を大きく超える応募があり、炭に対しての関心の高さが感じられ、とても有意義な講座となりました。

また、十二月二日、名古屋事務所において、第八回森林ふれあい講座を「自然の物を素材に手作りリースに挑戦!!」と題して開催しました。

今年のリース作りは、都市部の人々を対象に、自然の物を使った作品作りを、楽しんでもらおうと、会場を昨年までの森林交流館から名古屋事務所に移して実施しました。

当日は、師走とは思えない穏やかな日となり、十七名の参加者は、フラワーアレンジメントとして活躍されている小林宣子先生による指導のもとで、ベースとなる蔓にマツボックリ、コウヨウザン等の球果や、南天、柊等の枝葉等、自然の素材を色とりどりに飾り付け、個性豊かなオリジナルなリースを完成させました。

親子で参加された人も多く、素材は同じでも、一つ一つ違う作品が完成し、出来上がったリースをお互いに見比べながら、喜びの声を上げていました。

講座終了後、参加者からは、「自然の物でこんなに立派なリースができるなんて素晴らしい!」、「都市で、自然が身近に感じられた。」「来年は他の講座にも参加したい。」等の声が聞かれ、とても有意義な講座となりました。



みんなでリース作り

環境省と連携し

森林の大切さをPR

「名古屋事務所」十一月十八・十九日、名古屋市の藤前干潟において「藤前干潟ふれあいデー2006」が開催され、名古屋事務所も、森林の大切さや森の働きについてのパネル展示と、丸太切り体験コーナーを開設し、来場者に対するPR



小学生が多かった木工体験

を実施しました。

藤前干潟は、多くの渡り鳥の中継地となっており採餌や休息を行います。また、冬季には多くのカモ類が越冬のため訪れる湿地で、二〇〇二年にラムサール条約に登録されました。また、会場となった「稲永ビクターセンター」は、環境省が所管し、干潟が一望できる公園の中にあるため、大勢の人が野鳥の観察や釣り、散歩を楽しむ場所として賑わっている場所です。

当日は、多くの人がイベントに来場し、野鳥のクラフト教室や、ガラス細工、コンサート等を楽しんでいました。名古屋事務所が出展した丸太切り体験コーナーにも小学生を中心にたくさんの方が訪れ、切った丸太を利用し鉛筆立てや壁飾り、コースター作りを楽しんでいました。

ノコギリを持つのが初めての子どもが多く、最初のうちはなかなか上手く切れず、手こずっていました。切るのが進むにつれ徐々に上手くなり、何回も挑戦する子もいました。

二日間のイベントを通じ、水辺の自然と森林の自然とが、双方連携することで、地球全体の環境保全につながると強く感じました。

勤労感謝の日を前に 保育園児が訪問

〔東信署〕十一月二十二日、白田保育園（ゆり・きく組園児）約四十名が、働いている人を実際に見て、感謝の気持ちを持つことを目的に毎年行っている勤労感謝訪問で、保育士の先生に連れられ歩いて東信森林管理署を訪れました。

園児たちは、事務室で働いている職員の様子を見て会議室に移動し、森林ふれあい係長から山の木はどのようにして生えてくるのかについて真剣に聞いていました。その場を動けない木が遠くまで種を運ぶ方法の中で「風さんに手伝ってもらい遠くへ運ぶ方法を選んだ種は、羽や綿毛を付けていること。」や「鳥さんに運んでもらう方法を選んだ種は、甘い実をつけ食べてもらおうとしていること。」を話しながら、種の飛ぶ方法をやってみると「すごい！」「よく飛ぶ」と感心していました。

その後、パウチで紅葉した木の葉を使



歌と手話を披露する園児

い葉の作製を体験し、園児からの質問では、「木の葉は秋になると散ってしまうのは何故ですか。」「どんな仕事をしているんですか。」などの質問が出され、回答にとまどう場面もありました。最後に園児たちからは、日頃、練習した「花さき山」と「どんぐりころころ」の歌を手話を交えて披露し「お仕事ご苦労様です。」と感謝の気持ちを伝え終りました。

当署の職員も小さな子供たちから感謝の気持ちをいただき、心新たに仕事に励もうと感じたところです。

民有林と連携し 獣害対策交流会を実施

〔飛騨署〕十一月二十日、切雲国有林、横谷国有林及び飛騨市宮川町内民有林においてクマによる樹木のはく皮被害防止対策の技術交流会を、飛騨農林事務所、飛騨市、飛騨森林管理署員ら十名が参加する中実施しました。

今年、クマが民家近くに出没し被害の発生が大きく報道されていますが、森林においては数年前からクマによる樹木のはく皮被害が大きな問題となつていきます。

そこで、当署の「地域発案システム」による飛騨市との森林環境保全協定に基づき、被害防止対策施業地の見学等を行い、被害を予防し鳥獣と共生できる森林施業を目指して必要な情報交換や技術交流を行いました。

国有林における見学では、一昨年から生分解性のネット張りやテープ巻き、また、間伐木を林内に散在させる伐倒方法を採用するなど、直接的な皮はき防止対策や歩行妨害等の間接的な対策を行いその効果を調査している取り組みについて紹介しました。

今のところほとんどの木で被害防止効果が見られることから、参加者から「こんな簡単な作業で効果があがれば。」といった意見が聞かれました。

一方、民有林では、クマ被害のスギ林



技術交流会で説明を聞く参加者

を伐採搬出し資源の有効利用を図っている現地を見学しましたが、山主は有効な被害防止対策もなく再造林の意欲がないといった説明がありました。

飛騨市では今年七十二頭（昨年の十倍）のクマを捕獲しており、民家付近の被害防止対策に追われているのが実情で、「これまで奥山の森林被害の防止対策まで手が回らなかったが、今後クマ被害防止対策施業を検討したい。」といった感想も出され、これからも連携した取り組みを実施していくことを確認し交流会を終りました。

管内国設スキー場へのご案内

「国有林野管理課」現在、中部森林管理局管内では、長野県、岐阜県に国有林を活用したスキー場が二十六箇所あります。

昨シーズンのスキー場の利用者を長野県で見ただけの場合、延べ八五〇万人（対前年比九七％）と若干減少幅に歯止めがかかっています。これは各スキー場がファミリー・子供向けのターゲット戦略、他業種との連携、独自イベントの実施など特色のある誘客促進に取り組んだ結果と思われる。

今シーズンは、若干降雪が遅れておりオープンと同時に滑走出来るか心配されていますが、長期予報（暖・寒候期予報）によれば平年より雪の日が多いと予想されており、これから年末にかけて降雪が期待できゲレンデコンディションも良好になると思われますので、家族や恋人、友達を誘って週末はスキー場へ出かけてリフレッシュしてみませんか。

(5) 平成18年12月



好天の戸隠スキー場



好天の御岳スキー場
チャオノリゾート

シリース7 実験林・試験地等紹介



国有林には、地球温暖化防止をはじめとする公益的機能を一層増進していくとともに、収入を確保し健全な財務を維持していくことが求められています。こうした中、既に人工林の多くは間伐の必要な年齢となっており、健全な森林を造成する上で、また長伐期施業や複層林施業等へシフトする森林が多くなる中で、今後、間伐を繰り返していくことが必要となっています。

しかし、長期にわたる木材価格の低迷により、林業の採算性が悪化し、森林・林業の活動が停滞するなど、間伐が進まない現状にあります。

これらの問題等を踏まえ、当センターでは、平成十四年度より技術開発課題「継続的に利用する作業道整備の推進と高性能林業機械による伐出システムの確立」として、高性能林業機械に対応した作業道の整備を行い、各種研究発表会で発表したほか研修会や現地検討会を行ってきました。

間伐等を推進するには、搬出コストの低減を図るための高性能林業機械の導入及び地域の立地条件に対応した低コスト

作業道の整備が必要であることから、これまでの成果を踏まえ普及、実証のための「作業道展示エリア」を整備しました。延長約五〇〇m以内に間伐材・根株・転石等の現地資材を活用して洗越、木製簡易橋梁、丸太組土留工、法面土留工、木製横断工、法面や路盤を保護する多様な簡易工作物等をモデル的に設置し、また低コスト路網の先進地である四万十式の表土ブロック積み工法等も取り入れてみました。

◆所在地：岐阜県下呂市
小川長洞国有林一一三林班



洗越工法



丸太組土留工法



尾根を利用した登坂路



**木曾谷と伊那谷を結ぶ
権兵衛トンネル**

「木曾署」木曾と伊那は直線で二〇キロメートル程度にもかかわらず、木曾山脈（中央アルプス）に阻まれ交易に制限を余儀なくされてきました。

中山道は江戸時代には、東海道のバイパスとして栄え、参勤交代などの荷物の取継ぎ人足や旅人も多く、このため米の需要が高く、調達には美濃や松本平から高い米を購入せざるを得なかったと言われていました。

当時から木曾には生活用品である桶、食器など豊富な木製品があり、伊那では米の供給が可能で、これらの交易ができないものかと誰もが考えていたことでしょう。

元禄九年に、旧日義村神谷の古畑権兵衛という人が、権兵衛街道を開削したことにより、物資の交易が可能となりましたが、それとて牛馬がやっと通行できる程度の急峻な山道であり、積雪期の通行

など困難さはつきまといました。

平成十八年二月四日、国土交通省と長野県の施工により待望の木曾・伊那連絡道として権兵衛トンネルが開通となり、交易や文化の交流が促進されるものと、多くの期待が寄せられています。開通から半年が経過し、観光面では入り込み者の増加が報告されています。

トンネル入口から峠方面を見れば、奈良井国有林一五五二林班の造林地が望め、峠付近には、伊那市上戸・中条の農民が米作りのために木曾側から水を引いた用水路や流量を測った水枘跡が残っています。

峠から徒歩で二十分の尾根には樹齢二五〇年余の風雪に耐えてきたジャンボカラマツがそびえ、往時の街道の鬱蒼とした感じを彷彿とさせてくれます。



峠に建つ古畑権兵衛の遺徳を讃える石碑



新しく開通した権兵衛トンネル



規定以上の水を木曾側へ戻す水枘

◇アクセス

木曾側からは、国道一九号木曾町日義から東方へ国道三六一号に分岐し伊那方面に向かう。塩尻市から国道一九号を下すると奈良井より県道を経て至る。伊那市から中央道伊那インターより約一km南に国道三六一号が東西を横切る。

お知らせ

中部森林技術交流発表会の開催について

中部森林管理局では、国有林・民有林・大学・NPO等が日頃から取り組んでいる森林・林業に関する試験研究、林業体験活動の取組内容について発表し、関係者の交流を深めるとともに、更なる森林・林業の推進とこれら成果の普及に資するため、中部森林技術交流発表会を下記のとおり開催します。

記

- 1 日 時 平成19年2月8日(木)～9日(金)
- 2 場 所 長野市大字栗田715-5 中部森林管理局 大会議室
- 3 担 当 指導普及課 (電話050-3160-6579)